

河川環境楽園における環境教育とエコパラクラブ

Environmental Education and activities of "Eco Para Club" at Water Eco Park

【河川環境楽園の概要】

環境共生テーマパーク『河川環境楽園』。自然発見館はその河川環境楽園の中にある。

平成11年7月にオープンし、都市公園でありながら河川を中心とした多様なフィールドを持ち、木曾川や新境川の自然河川だけでなく、木曾川の上流から下流までの風景や自然を再現した人口河川を備え、生物の生息環境の多様性を創り出している。

また、世界淡水魚園水族館『アクア・トトぎふ』、川島PAを含む東海北陸自動車道のハイウェイオアシスでもあり、平成26年度の入園者数は約448万人。(東海地方で4番目の集客数：東京UJ J総研調べ)

【運営の特徴】

都市公園として身近な動植物に直接触れ合う中で、専門の知識を持った指導員と楽しみながら学ぶことができるプログラムを多数提供。

河川環境楽園の環境教育は対象別の2つのプログラム群で構成。平日を中心とする「学校団体向けプログラム群」と、休日を中心とする「ファミリー向けプログラム群」。多様なフィールドを最大限活用しながら事業を展開しており、プログラム参加者数は累計30万人。



河川環境楽園における環境教育の取り組み

1. 自然発見館の特徴ある工房

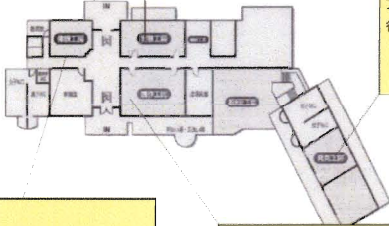
実験工房 (定員 40名)

プログラム利用の中心
学校や一般団体などのグループ学習に対応し、ガスや水道、電気、様々な道具や教材を使った、実験型のプログラムを行います。



発見工房 (定員 40+40名)

部屋のアレンジが可能。
利用目的に応じて、部屋の中心で仕切ることができ、研修会や会員制の講座など、様々なプログラムを行っています。



体験工房

体験からの学びを促進するために、子どもたちが直接手に取って心を動かす「ハンズオン」型の展示、教材が準備されています。様々な情報が自由に得られるよう、自然環境系の書籍や図鑑なども常備。

創作工房 (定員 50名)

ワークショップの場
多人数での利用にも対応し、市民活動やワークショップなど様々な目的に応じたプログラムを行っています。



2. プログラムの開発 (学校団体プログラム群)

① 立地条件を活かす

自然河川や公園内の人口河川など、水辺に囲まれた公園の立地条件を活かし『川』に焦点を当てたプログラムを豊富に用意。

② 学校の授業とのつながり

学習指導要領で示される学習要素とリンク。学校の指導過程の延長線上として利用の参考となるようプログラム運営に努めている。

③ 効果的な体験

体験を『点』で終わらせないよう、体験前と体験後をひとつの流れとして提案。すべてのプログラムに『事前学習シート』を用意。

④ 3つのステージ

1. 導入。
2. 展開。
3. ふりかえり。

3. 平成26年度の取り組み (ファミリー向けプログラム群)

H26年度の取り組みとして、「幼児」を対象とした活動を増やし、安全安心な国営公園にて充実した自然体験活動を行いました。また公園の自然をより体感できる「歳時記」イベントを実施しました。歳時記にちなんだ「食」や「活動」に参加することで、公園で季節の移り変わる様子を表現しました。また、単発イベントについては、通常の観察やクラフトの種類だけではなく、実験や食など、多様な種類を取り入れたラインナップにしました。

ファミリー向けプログラムの取り組み

年間会員制プログラム

河川環境楽園では、開園以来の実績から「会員制による年間プログラム」が有効であることを認識しました。

平成23年度からは「エコパラクラブ」に加えて、4つのテーマごとの年間プログラムを開始。さらに平成26年には幼児向けプログラムを加え計6つの年間プログラム(「自然と遊ぼう! ポレポレタイム」「むしむしクラブ」「おさかなクラブ」「たんぼクラブ」「楽農クラブ」「エコパラクラブ」)に拡大し、応募者・参加者ともに年々増加しています。

観察・実験・野外活動系プログラム

生きものの生態や自然の仕組み、五感を使った体験していただくための環境教育プログラムを行いました。

クラフト系プログラム

作品づくりを通して、生きものの生態や、自然の仕組みなどを知るきっかけとしていただくためのプログラムを行いました。



年間会員プログラム「ポレポレタイム」



幼児向けプログラム「昆虫で老せぼう」



年間会員プログラム「楽農クラブ」



クラフト系プログラム「よもぎパワー」



年間会員プログラム「たんぼクラブ」



歳時記プログラム「ホト・もうほんぐくり」



実験系プログラム「光のレインボー」



歳時記プログラム「おしち・しずくくり」



観察系プログラム「冬のバードネットング」

4. 環境教育プログラム取組の成果と課題

★年間2万人以上が『参加・体験』…日本を代表する環境教育拠点に成長
開園当初は、年間約1万人の参加者数から始まり、
平成26年度は、約2万8千人の方が参加している。

★ファミリー向けプログラムの利用増

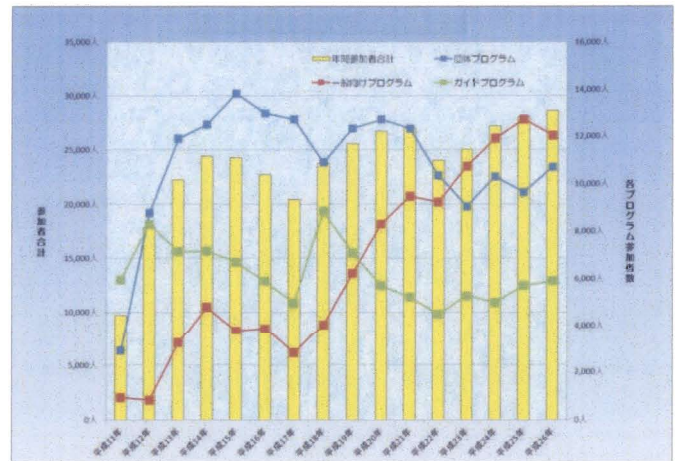
子育て世代である20～30代の大人が成長期における自然体験が希薄である中、子供たちへの自然体験提供へのニーズが高く、
年々ファミリー向けプログラムの参加者数が増加。

★高い満足度

参加学校団体の教員から高い評価を得ており、リピート率も高い
一方で学校現場では校外学習への予算確保が困難であったり、
教員自身の理科離れなどの課題も。

教育施策との連携や、子育て支援の視点による
環境教育事業の必要性

【環境教育プログラム参加者数の推移】



エコパラクラブ ～専門スタッフとパートナーシップで運営する公園ファンクラブ～

1. エコパラクラブとは？

平成11年、河川環境楽園オープン当時より活動開始。

【4つの目標】

- ① 河川環境楽園のファンクラブとなる会員制友の会の設立・運営。
- ② 河川環境楽園一帯のフィールドを利用し、自然の楽しみ方を体感する。
- ③ 河川環境楽園の愛好活動を展開し、地域の人々に親しまれる公園に育つことをめざしていく。
- ④ 自然や環境に興味を持つ人々が集まり、交流を深めることでボーダレス（世代、居住地、職業等を超えた）なネットワークを構築する。



2. 平成26年度年間の活動内容

実施月	活動名	内容
4月	エコパラバッジをつくらう	自然の材料で手作りのバッジづくり
5月	田植え体験	米づくりにチャレンジ
6月	七夕飾り	七夕飾りをつくり農家に展示
7月	水辺の生き物と遊ぼう	新境川で魚や生き物を採取・観察
8月	竹の工作	園内の竹を使った工作をします
9月	かかしづくり	かかしを作って棚田に設置。コンテストも開催
10月	稲刈り体験	立派に実った稲を収穫
11月	脱穀・リースづくり	脱穀体験とクリスマスに向けたリース作り
12月	わら細工&クリスマス会	脱穀したわらを使ってしめ縄飾り&クリスマス会
1月	嵐あげ大会	自分でつくった嵐を河原で
2月	ひな飾り	自然の材料を使ってひな飾りづくり
3月	卒業記念作品をつくらう	卒業記念の写真立てづくり&1年間の振り返り



3. 活動の成果

◆環境教育

運営方針として「教える」ことより「体験して感じる」ことに重点を置いた自由度の高い進行を基本としています。
この結果参加者が積極的に活動に取り組み、共に感動や達成感を分かち合う場面が多く見られます。

◆パートナーシップ

国営公園での環境体験活動を、管理センターと専門スタッフ※1とのパートナーシップで実施する先駆的な展開例となりました。
国営公園の自然体験プログラムとして幅広いニーズに応えうる運営体制（企画力、運営力、編集、自然観察、ネイチャーゲーム、農業技術）を確保しています。 ※1 エコパラリーダー会

◆利用促進

15年間の平均応募倍率は約2.5倍、応募者数約3,800名、延べ会員数約1,500名。参加満足度が非常に高くリピート率が高いのも特徴です。

◆一人ひとりの自発的な環境活動へ

現在ではプログラム運営を支える「サポートファミリー」「学生サポーター」などの制度を加え、参加者がプログラムの企画・実践を行うまでに成長しており、目標とする「自然や環境に興味を持つ人々のネットワーク形成」が現実のものとなっています。



参加者同士が体験を共有するツール
エコパラ通信を発行